

令和4年度 （ 枝幸町 ）小規模・複式教育部会の活動計画

令和4年度活動計画

1、研究主題

『へき地・複式学校，小規模の良さを生かし，未来を切り開く力を育む学びの創造』

2、活動の方針・方向性

- ・地域や学校，児童の実態を的確に把握し，へき地複式学校の特性を生かした学習指導，学習過程の研究を通して，一人一人が豊かに学ぶ授業の創造に努める。
- ・へき地複式学校の学習活動を効果的に推し進めるため，指導過程や学習過程を工夫・改善しながら，主体的に学習に取り組み，生き生きとした児童の育成に努める。
- ・枝幸町小規模教育の実態に基づきながら，その課題解決のために，研究・実践を通して，研究交流を図る。また，宗復連に集う他市町村との研究交流を進めるなど，他の教育研究機関及び団体との連携を進める。

3、活動内容や部会体制

- ・子どもの思考を深める，指導の効率化を図るための授業づくりを進める。
- ・町内の小規模校の研究課題を明らかにし，具体的研究推進を図る。
- ・複式教育実践講座を開催する。
- ・枝幸町複式教育研究大会を実施する。（枝幸町教育研究大会と兼ねる 山臼小 岡島小）
- ・実践研究を重視すると共に，研究の累積を図るように努める。
- ・広い視野に立ち，管内研・全道複式教育研究大会への積極的参加を進める。

*部会体制

枝幸町教育研究会複式部会 → 町研副会長（複式部付）1名 複式部長（1名）
 理事 5名（各学校より1名）
 複式部 5校 部員 29名
 低 10名 中 11名 高 8名

- ・宗谷複式教育研究連盟に係る業務
- ・全道・管内複式教育研究大会に係る業務

4、年間活動計画

4月18日(月)	町研総会	紙面開催
5月13日(金)	管内複式実践講座（枝幸中央コミセン）	対面研修
7月	複式部会理事会(各校代表者会議)	
11月16日(水)	枝幸町教育研究大会（山臼小 岡島小）	
12月	複式部会理事会(各校代表者会議)	

*全道複式研胆振大会への参加希望を募る

令和4年度 枝幸町小規模・複式教育部会の活動報告・反省

令和4年度活動報告・反省

1、部会の活動内容報告

○子供の思考を深める指導の効率化を図るための授業づくりを進める。

- ・5月13日（金）複式実践講座 枝幸町中央コミセンにて

○町内の小規模校の研究課題を明らかにし、研究推進を図る。

⇒枝幸町教育研究会と統合して2年目となった。部会としての活動はないが、学校独自に研究主題を立て、複式校としての研究を進めている。

- ・オンラインで公開授業配信（音標小）
- ・teamsを使った生活科，社会科等の合同授業（各校）

○枝幸町複式研究大会と共催で「枝幸町複式教育研究大会」を実施する。

（令和4年度は、11月16日（水）に研究大会を実施する。山臼小 岡島小）

⇒今年は、コロナウイルス感染症流行のため大会は中止となったが、学校研究，授業研とも紙面交流となった。

○広い視野に立ち、管内研・全道複式教育研究大会への積極的参加を進める。

- ・へき地複式教育研究大会 胆振大会 オンライン参加者 2名 現地参加 1名
- ・全国へき地教育研究大会 山形大会 オンライン参加者 1名

2、成果と課題

- ・5月13日（金）の複式実践講座は、リアル開催で有意義な実践講座となった。
- ・コロナウイルス感染症流行のため大会は中止となったが、紙面交流にて各校の研究が交流できた。
- ・オンラインで公開授業配信するなど自校の取組を積極的に外へ発信する取組を行った。
- ・teamsを使った生活科，社会科等の合同授業等，小規模ゆえの問題に対して各学校が積極的に取り組んだ

3、令和5年度に向けて

○町内の小規模校の研究課題を明らかにし、研究推進を図る

- ・オンラインによる自校の取組の外への発信

○子供の思考を深める指導の効率化を図るための授業づくりを進める。

- ・複式実践講座 枝幸町中央コミセンにて（5月）
- ・teams, zoom等オンラインを活用した授業づくり

○広い視野に立ち、管内研・全道複式教育研究大会への積極的参加を進める

令和4年度 （市町村名 幌延町 ）小規模・複式教育部会の活動計画

令和4年度活動計画

1、研究主題

「へき地・小規模・複式の特性を生かし、自ら学びを創造する子の育成」（1／3）
～個別最適な学び・協働的な学びを通して～

2、活動の方針・方向性

- (1) 「自ら学びを創造する子の育成」に向け、へき地・小規模・複式教育における教育課題の
解明と学校課題の解決に取り組み、教職員の資質向上（＝学校の質的向上）を図る。
- (2) 道へき・複連、宗複連、宗谷管内教育連携会議、幌延町教育研究所と連携を図り、研究
活動を進める。
- (3) 中学校部会の協力を得て、各種研究会や講座への積極的参加と還流を図る。

3、活動内容や部会体制

(1) 活動内容

- ①理論研究と授業実践（効果的なICT機器の活用、個別最適と協働）
- ②複式教育実践講座、管内研等への積極的参加と還流
- ③幌延小学校との合同学習において、交流、コミュニケーション能力、表現力を高める
学びの場とする。

(2) 部会体制（問寒別小）

- ・部会長：大内 寿晃（校長） ・事務局長：高木 一茂（教頭）
- ・会計：秋葉 雄太
- ・部員：池田 勝範、高橋 朋也、安藤 徹

4、年間活動計画

- | | |
|--------|----------------------------|
| 4月28日 | 全体研修・部会研修 |
| 6月 9日 | 1学期前半の授業づくりの成果と課題と1学期後半の取組 |
| 7月 | 授業公開、1学期のまとめ |
| 8月25日 | 事例研修 |
| 9月～12月 | 授業公開 |
| 9月22日 | 宗谷管内教育研究大会（猿払村、浜頓別町、中頓別町） |
| 11月 日 | 校内研、幌延町教育研究大会 |
| 1月 | 今年度のまとめ |

令和4年度 （市町村名 幌延町 ）小規模・複式教育部会の活動報告・反省

令和4年度活動報告・反省

1、部会の活動内容報告

- 4月28日（木） 今年度の研究計画の確認（仮説1・仮説2提起）、学習ルール
6月 9日（木） 1学期前半の授業づくりの手立て・成果・課題、1学期後半の取組
28日（火） 中学校1・2年生 美術研究授業
7月21日（木） 1学期の授業づくりについて（成果と課題）と2学期に向けて
8月25日（木） 生徒指導に関する事例研修（ゲーム依存・不登校）
6日（木） 小学校1年生 国語研究授業
9月22日（木） 宗谷管内教育研究大会の参加（猿払・浜頓別・中頓別）
10月 7日（金） 小学校4年生 国語研究授業
27日（木） 指導案検討（中学校1年生国語：学校研究授業に向けて）
11月 2日（水） 模擬授業（中学校1年生国語：学校研究授業に向けて）
21日（月） 中学校1年生 国語学校研究授業（学校教育指導訪問）
12月22日（木） 2学期の成果と課題
2月 3日（金） 今年度の校内研修のまとめと次年度からの校内研修に向けて
3月 2日（木） 次年度の校内研究の方向性提案

2、成果と課題

- ・全教師が授業公開をしたことで、校内研究を深めることができた。
- ・全教職員が校内研究の主題や仮説を意識し、特に国語の系統性を踏まえた中学校国語科の指導案検討や模擬授業を行い、研究を深めることができた。
- ・学びのサイクルを意図的にデザインし継続的に指導することで、既習事項を活用する意識の高まりがみられた。
- ・「課題」から「まとめ」の流れがわかる授業展開、板書の工夫を意識することができた。

3、令和5年度に向けて

- ・今年度（3か年計画の1年目）は単式で、仮設の視点における手立ての研究であったが、次年度は複式での実践を積み上げていく。
- ・個別最適な学びと協働的な学び、Google for Education の活用やその他ICT機器の活用、カリキュラム・マネジメント、道徳教育などから）を本校の児童生徒の強み・弱みと関連づけた校内研究とする。

令和4年度 （市町村名 豊富町 ）小規模・複式教育部会の活動計画

令和4年度活動計画

1、研究主題

「小規模校の特長を活かした個別最適な学びの研究～「兜沼メソッド」の実践を通して～」

2、活動の方針・方向性

- (1) 「サロベツの風土に生きる創造性豊かなたくましい児童生徒の育成」を期して、へき地・小規模・複式教育における「令和の日本型教育構築」の課題を捉え、複式教育研究の充実と教職員の職能向上を図る。
- (2) 「社会に開かれた複式教育」を目指し、保護者、地域住民、宗谷複式教育連盟及び豊富町教育研究会と連携を図りながら運営を行う。
- (3) 管内・全道の各種研究機関・団体と連携しながら、各種研究会への積極的な参加と環流を図る。
- (4) 保護者・地域の願いやニーズを踏まえ、小規模へき地・小中併置校の良さを活かした「多様性尊重」「個性伸長」を目指した教育を推進する。

3、活動内容や部会体制

- (1) コロナ禍をふまえ各研究会等への参加方法を工夫し、研究活動の交流を行う。
- (2) 複式教育の教育課程に関わる情報収集と研究を行う。また、研究会などに参加し学んだことを会員に環流する。

4、年間活動計画

- 6月上旬 授業交流週間
9月下旬 宗谷管内教育研究大会（猿払・浜頓別・中頓別）
11月16日 豊富町教育研究大会（豊富小）

令和4年度活動報告・反省

1、部会の活動内容報告

I 研究主題

「小規模校の特長を活かした個別最適な学びの研究～「兜沼メソッド」の実践を通して～」

II 活動の方針・方向性

- (1) 「サロベツの風土に生きる創造性豊かなたくましい児童生徒の育成」を期して、へき地・小規模・複式教育における「令和の日本型教育構築」の課題を捉え、複式教育研究の充実と教職員の職能向上を図る。
- (2) 「社会に開かれた複式教育」を目指し、保護者、地域住民、宗谷複式教育連盟及び豊富町教育研究会と連携を図りながら運営を行う。
- (3) 管内・全道の各種研究機関・団体と連携し、各種研究会への積極的な参加と環流を図る。
- (4) 保護者・地域の願いやニーズを踏まえ、小規模へき地・小中併置校の良さを活かした「多様性尊重」「個性伸長」を目指した教育を推進する。

III 活動内容や部会体制

- (1) コロナ禍をふまえ各研究会等への参加方法を工夫し、研究活動の交流を行う。
- (2) 複式教育の教育課程に関わる情報収集と研究を行う。また、研究会などに参加し学んだことを会員に環流する。

IV 年間活動計画

6月上旬 授業交流週間

9月下旬 宗谷管内教育研究大会（猿払・浜頓別・中頓別）

11月16日 豊富町教育研究大会（豊富小）

2、成果と課題

□小規模・小中併置校のよさを活かした教育課程の工夫（レシカタイム・小学校教科担任制・56年生からの部活動等）・授業改革（自由進度学習等）の実践研究を行うことができ、町研大会で公開することができ、成果を町内校で共有することができた。

■R4 研究成果の継続・日常化

3、令和5年度に向けて

・「兜沼メソッド」～『小規模・小中併置校のよさを活かし、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」にむけた教育課程』の完成と実践

令和4年度（猿払村）小規模・複式教育部会の活動計画

令和4年度活動計画

1. 研究主題

「へき地・複式・小規模校の特性を生かした、豊かな心と確かな学力を持つ子どもの育成」

2. 活動の方針・方向性

- (1) 村研との連携を図り、複式小規模校の現状と課題を把握し、学校研究及び教育実践の交流・深化を図る。
- (2) 北海道へき地・複式教育連盟（道へき・複連）、宗谷複式教育研究連盟（宗複連）、各種研究機関と連携しながら、複式教育の課題解明を図る研究活動の推進に努める。
- (3) 宗谷複式教育研究大会、全道へき地・複式教育研究大会、各種研究大会などへの積極的な参加を図り、会員の資質向上に努める。

3. 活動内容や部会体制

部会長	芳賀 重紀	（浅茅野小）		
事務局長	真鍋 奈美	（浅茅野小）※兼学校代表		
会計	笹子 未来	（浅茅野小）		
監査	嶋崎 健一	（浜鬼志別小）	中川 明	（知来別小）
学校代表	山口 智義	（浜鬼志別小）	菊地 大	（知来別小）

【今年度のねらい】

令和4年度宗谷管内教育研究大会が、浜頓別町、中頓別町、猿払村の3町村合同で開催が予定されており、各校では複式授業の公開に向けての準備を進めている。今年度、猿払村教育研究会複式部会では、宗谷管内の重点である『子どもの未来保障 OVER70』達成に向け、より効果的な複式授業の構築（わたり・ずらし）のためのバックアップを行い、教育研究大会の成功を目指す。

さらに、昨年度に引き続き、ICTの効果的な活用による、複式授業の個別最適な学びの充実に向けて、各校の村研複式部会代表者を中心に各校で研修・実践を行う。

4. 年間活動計画

- (1) 宗谷管内教育研究大会猿払・浜頓別・中頓別大会（9月22日）に向けて
 - ・複式授業に慣れていない教員への支援（授業づくり支援）
 - ・主体的・対話的で深い学びを目指す複式授業改善の各校の校内研修等の交流
 - ・猿払村教育研究会との連携
- (2) ICTの日常的・効果的な活用
 - ・ICTを活用した効果的な渡り授業の実践、検証
 - ・学校間オンライン交流

令和4年度 （猿払村）小規模・複式教育部会の活動報告・反省

令和4年度活動報告・反省

1 部会の活動内容報告

(1) ICTを活用した実践交流

ア 小学校間では、classroomなどを活用した学習内容の交流を行った。

イ デジタルドリル「Qubena 小中5教科」実践事業に参加し、運用に関する交流を行った。

ウ 教育委員会と連携し、職員研修をオンラインで実施した。

① 7月14日、8月16日に「Qubena 小中5教科」導入研修を行った。

② 8月31日に「個別最適な学び」「協働的な学び」の推進に向けて、「ICTの授業・校務の活用」の研修を行った。

(2) 子どもの未来保障のための各校の学力向上の取り組み等の交流

ア 学校経営案や学校評価をもとに、各学校の学力向上に向けた取組について交流を行った。

イ 宗谷管内複式教育研究大会後に、授業公開をした学級の指導案・成果と課題などを宗谷管内複式教育研究連盟のホームページに載せて交流を図った。

ウ 猿払村教育研究会においての取組の報告をまとめた。（あしたもともだち参照）

2 成果と課題

【成果】

(1) 宗谷管内複式教育研究大会を通して、宗谷管内の重点である『子どもの未来保障 OVER 70』達成に向け、より効果的な複式授業の構築（わたり・ずらし）のためのバックアップを行いながら、教育研究大会において成果をあげることができた。

(2) デジタルドリル「Qubena 小中5教科」実践事業に参加し、端末を学校で活用する以外に、日常や長期休業中に家庭で使える体制を確立することができた。

(3) 教育委員会とメディアリテラシーに関する資料を作成した。

・改訂版「タブレットのルール」・「運用留意事項」・「猿払村学年段階別情報活用能力」

【課題】

(1) 学校や町村をつなげたオンラインを活用した単式授業など、指導形態を含めた学校間連携について協議していく。

(2) 学びポケットから利用できるeラーニングやMEXCBT活用について、活用状況や利用方法について協議していく。

3、令和5年度に向けて

(1) ICTを効果的に活用した個別最適な学びの実践を通じた研修の交流を深める。

(2) 情報推進委員会や教育委員会と連携して、ICTの効果的な活用についての体験的な研修を進めることで、全教員のタブレットを活用した授業力の資質・能力を高める。

令和4年度（利尻町）小規模・複式教育部会の活動計画

令和4年度活動計画

1、研究主題

『対話的活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできる力の育成』

～少人数における効果的な対話的活動のあり方 算数科を通して～

2、活動の方針・方向性

（1）昨年度の研究経過から

本校は、昨年度「身に着けた力を活用し、主体的に学習に取り組む子の育成」を主題として設定し、研究を進めてきた。

その中で、基礎的基本的な学力の定着を図るため、朝活の「たの算」の内容の工夫や、学級においての宿題、ベルトタイムの活用により、基礎的基本的な力の向上を図ることができた。また、主体的に取り組む力の向上を図るために、丁寧な指導を心掛け、図や表を用いて考えることで、苦手な文章題を解く力も向上した。

しかし、課題として、丁寧な指導は子どもたちが安心して活動できるが、自らの思考にはつながりにくい。ある程度自ら考えさせる指導も必要であり、そこでの個人思考のつまずきは対話の中で解決する力も大切だということがあげられた。その他に、子どもたちの実態から、自ら思考し、自分の考えを表現したり、それをもとに話し合ったりすることが苦手であることが分かっている。また、次年度の学力向上に向けた取り組みを考える中で、「考える（書く）・発表（説明）する・話し合う」力を重点に取り組んでいくという方向性もあげられた。

そこで、これまでの成果である、基礎基本の力をもとに、自ら思考し、相手意識をもって分かりやすく表現したり、様々な手段で比較しあったりすることを通して、自分の考えを深めたり、広げたりできる力の育成を図っていきたいと考える。

（2）児童の実態から

本校の児童の実態として、生活面では、素直で思いやりがあり、与えられた仕事や役割に一生懸命に取り組むことができ、それを支えているのは個々の意識から生まれる全体の雰囲気である。その反面、自ら課題を見つけて行動することが苦手で、指示待ちになりがちである。

学習面では、与えられた課題や見通しをもてる課題には真面目に一生懸命に取り組むことが出来る。また、個人差はあるものの基礎的・基本的な学力は身につけており、学力検査の結果も全国平均以上の児童が多い。その反面、学習した内容がその時には定着していても時間がたつと忘れてしまう。ひな形があれば書けるが、何もないと自分の考えを書くことができない。与えられたことはできるが自ら思考することが苦手である。また、自分の失敗を気にしてか、話し合いで自分の考えを自由に表現したり、話し合ったりすることが苦手な面があるという実態が見られる。

3、活動内容や部会体制

(1) 対話的活動を通して（少人数における効果的な対話的活動）

①自ら思考し、自分の考えを分かりやすく表現する力の向上

- 考えたい、やってみたい、できそうだという学習課題の設定
- 考えた過程が分かるノートづくり
- 図や数直線、グラフなどを用いて自分の考えを書く活動

②他の考えと比較、他者との交流、自分の考えを再構築する力の向上

- 教科書の登場人物やクラスの友達の考えと自分の考えとの比較
- クラスの友だち、対教師、ICT 機器等を用いて他者の意見との交流→子ども対教師でまとめ上げ（型にはめて話すのではなく自由に交流できるように）
- 振り返りにおいて自分の考えの変化や新しい発見の記入と時間設定の工夫

(2) 自分の考えを深めたり、広げたりできる子の育成

①到達点に沿って自己評価できる

- 到達点を明確にした課題設定（今日何ができればいいのか、今日何が分かればいいのかを明確）
- 振り返りにおいて学習内容の定着を見とる。

②学習したことを次時に活用したり、家庭学習などでも積極的にその学習や応用問題に取り組んだりできる。

- 前時の振り返りの中で子供たち自らが本時の課題に気づかせる工夫
- 家庭学習の内容の工夫

4、年間活動計画

	月	日	研究内容	担当
①	職員会議②		今年度の研究の方向性について交流	研修
②	5	1 3	校内研修「ICT」をテーマに交流	研修
③	6	2 3	授業公開①に向けた指導案検討	
④	6	2 8	模擬授業①	
⑤	7	5	授業公開① 事後研	
⑥	1 0	2 0	授業公開②に向けた指導案検討	
⑦	1 0	2 5	模擬授業②	
⑧	1 1	7	授業公開② 事後研	
	冬		1年間の課題と成果アンケート	研修
⑨	1	2 4	1年間の課題と成果	研修
⑩	2	9	公開授業③ 感想交流	
⑪	職員会議⑬		次年度に向けての方向性	研修

令和4年度（ 利尻町 ）小規模・複式教育部会の活動報告・反省

令和4年度活動報告・反省

1、部会の活動内容報告

- ①町内唯一の複式校である仙法志小学校の学校研究を中心に活動を行った。仙法志小学校の活動内容は下記の通りである。
- ②校内研究授業を3回実施し、うち2回は町内各校及び利尻富士町複式校に参観を依頼した。
- ③島研教科サークルで算数・道徳の授業を公開し、学校研究についての助言をもらった。

＜仙法志小学校 学校研究＞

◎研究主題『対話的活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできる力の育成』
～少人数における効果的な対話的活動のあり方 算数科を通して～

◎活動内容

月	日	研究内容	備考
職員会議		今年度の研究の方向性について交流	
5	12	公開授業（算数）	島研教科サークル
5	13	校内研修「ICT」をテーマに交流	
6	23	研究授業①に向けた指導案検討	
6	28	研究授業①に向けた模擬授業	
7	5	研究授業① 事後研	
10	20	研究授業②に向けた指導案検討	
10	25	研究授業②に向けた模擬授業	
10	26	公開授業（道徳）	島研教科サークル
11	7	研究授業② 事後研	指導主事訪問
冬		1年間の課題と成果アンケート	
1	24	1年間の課題と成果	
2	9	研究授業③ 感想交流	
職員会議		次年度に向けての方向性	

2、成果と課題

- 9月の管内研・管内複式研への全員参加を含めて、コロナ禍の影響をほぼ受けることなく、計画通り活動を行えた。
- 複式校1校ではあったが、広く参観を呼び掛けることによって貴重な助言をいただくことができ、研究が深まった。

3、令和5年度に向けて

- 管内研・管内複式研が利尻島開催である。1校及び1町ではなく、利尻島教育研究会の総力を挙げて組織的に取り組んでいきたい。たくさんの来島・参加を期待している。
- 本町（仙法志小）も可能な限りたくさんの授業公開に努め（といっても2学級だが）自他の研究の深まりを図りたい。

令和4年度 （利尻富士町）小規模・複式教育部会の活動計画

令和4年度活動計画

1、研究主題

たくましい実践力をもって、主体的・創造的に生きる子どもの育成
～複式小規模の特性を活かした学習指導の充実～

2、活動の方針・方向性

（1）複式教育の研究・研修活動を積極的に推進する。

①わかる授業をめざす研究活動を通し、授業改革を図る。

②子どもの変容をとらえ、個別最適な学びを進め、学力の保障を図る。

（2）小中一貫教育を生かした教育活動を推進する。

①複式と単式授業を併用し、協同的な学びを実現する。

②乗り入れ授業の充実を図り、児童の実態に応じた授業を実施する。

（3）宗谷複式教育研究連盟・他教育機関・団体との関係を図る。

①教育局や教育委員会、利尻島教育研究会との連携を深める。

②確実な研究推進と実りの多い成果を目指して他町村と情報共有に努める。

3、活動内容や部会体制

①現在、町内で複式校は本校1のみとなっているため、校内研究と一体化した取組を行う。

②小学校部会の課題を小中で共有し、複式研究を学校課題として取り組む。

③利尻島教育研究会の取組の中で、利尻町複式校との情報交換・共有を図る。

4、年間活動計画

4月18日（月）利尻島教育研究会総会（兼複式部会総会）

4月20日（水）宗谷複式教育研究連盟総会第1回役員研修会 web

6月15日（水）宗複研市町村代表者会議兼第2回役員研修会 web

7月 校内公開授業交流週間

8月19日（金）宗複研第3回役員研修会

9月14日（水）利尻島教育研究大会（会場校：全学級授業公開）

9月22日（木）宗谷管内教育研究大会兼宗複研大会（猿払・中頓別・浜頓別大会）

11月 校内公開授業交流週間

11月30日（水）宗複研第4回役員研修会

2月 9日（木）宗複研第2回市町村代表者会議兼第5回役員研修会

令和4年度活動報告・反省

1、部会の活動内容報告

【研究主題】

たくましい実践力をもって、主体的・創造的に生きる子どもの育成
～複式小規模の特性を活かした学習指導の充実～

(1) 活動の方針・方向性

- ①複式教育の研究・研修活動を積極的に推進する。
 - ア わかる授業をめざす研究活動を通し、授業改革を図る。
 - イ 子どもの変容をとらえ、個別最適な学びを進め、学力の保障を図る。
- ②小中一貫教育を生かした教育活動を推進する。
 - ア 複式と単式授業を併用し、協同的な学びを実現する。
 - イ 乗り入れ授業の充実を図り、児童の実態に応じた授業を実施する。
- ③宗谷複式教育研究連盟・他教育機関・団体との連携を図る。
 - ア 教育局や教育委員会、利尻島教育研究会との連携を深める。
 - イ 確実な研究推進と実りの多い成果を目指して他町村と情報共有に努める。

(2) 活動内容

- ①研究授業の開催
 - 利尻島教育研究大会の会場校として利尻小の全学級で授業公開を行った。指導案検討、事後交流も含め、日々の実践の積み重ねを振り返り、今後の授業づくりにつなげた。
 - 校内研究と一体化し、学習課題の設定や指導言、板書事項など、主体的・対話的な深い学びと学力保障をめざした授業づくりを進めた。
- ②校内研修等の充実
 - 小中一貫教育を柱に、9年間の学びの連続性について研修を深めた。
 - チャレンジテスト等の分析を進め、課題と対策について共有を図った。
- ③校外研修等への参加
 - 管内教育研究会へ町内小中学校の全教諭が参加し、他校の実践に学んだ。

2、成果と課題

①成果

主体的・対話的な深い学びを追求し、児童が自ら考え、対話を通じて課題解決を図る協働的な学びの研修を深めることができた。算数、英語、音楽の小中乗り入れ授業を行い、学びの繋がりを共有することができた。

②課題

利尻小が町内唯一の複式校であるため、複式の研修が停滞・孤立化している。隣町（利尻町）の複式校との連携やオンデマンド研修等により充実を図りたい。今後も複式授業での効果的な方法について学び合う機会を見つけ、積極的に参加できるよう体制整備を急ぎたい。

③次年度へ向けて

利尻小と鬼脇中の小中施設一体型一貫教育の利点を生かし、複式と少人数指導の9年間の連続した学びを構築していく。

令和4年度 礼文町 小規模・複式教育部会の活動計画

令和4年度活動計画

1、研究主題

「主体的に学びを深めていくことのできる子どもの育成」

～楽しくわかる授業づくりを通して～

2、活動の方針・方向性

- (1) 礼文町教育研究会の「礼文型教育連携」の実践研究計画、香深井小学校の学校経営方針および学校研究課題と整合性のある研究活動を推進する。
- (2) 宗谷管内の教育推進の重点並びに礼文町教育推進計画の目標を踏まえ、三特性（へき地性・小規模性・複式形態）を活かした実践研究を進める。
- (3) 小小連携による合同学習をはじめ、保小中高連携による学習活動・体験活動の実践、相互乗り入れによる授業の工夫改善等により、学校研究の充実を図ると共に教職員の力量向上をめざす。
- (4) 小規模校教育、複式教育について、町ぐるみの研究・研修が充実するように、町研事務局と連携して、町内の各学校への授業公開をはじめ研究成果の環流に努める。
- (5) 宗谷複式教育連盟および礼文町研と連携を図り、管内複式教育研究大会をはじめ、各研究大会・公開研等に積極的に参加し交流する。
- (6) ひきつづき、礼文町における小規模校教育、複式教育の研究内容と体制について検討する。

3、活動内容や部会体制

- (1) 礼文町複式教育部会（香深井小学校）
 - ・ 部会長 山本校長 ・ 会計担当 松田事務職員
- (2) 実践研究の充実に向けて
 - ・ 複式教育の実践校として、複式研究主題および礼文型教育連携の実践研究を活かしながら、学校研究を推進していくことが活動の基本となる。
 - ・ 宗谷複式連盟・礼文町複式部会として香深井小がその事務局を担う。研修や宗複関係の負担金など、必要な支援はひきつづき町研が担う。
 - ・ 町研および町内で積極的に研究成果や小規模・複式教育研究の動向について発信する。
- (3) 地域特性を活かした学習、多様な少人数教育・複式教育の実践研究
 - ・ 地域特性を活かした学習内容や学習形態の実践研究。
 - ・ 小小連携（香深井小・礼文小）による合同学習（教科・教科外）をはじめ、保小中高連携による多様な学習形態の実践研究。
 - ・ ICT・タブレットを活用した授業の実践。
- (4) 宗複・町研との連携による研修の充実・調査等の対応
 - ・ 管内複式研、研究大会・公開研・研修などへの参加（予定）、全国・全道の調査対応、
- (5) 町内への研究成果の発信・環流、広報活動

4、年間活動計画

- ・ 6月 宗複代表者会議 ・ 6月、11月 公開授業交流週間 ・ 9月 町研大会会場校、公開授業
- ・ 毎月 校内授業研 ・ 2月 宗複代表者会議 ・ 3月 研究のまとめ、来年度の方向性

令和4年度活動報告・反省

1、部会の活動内容報告

町内の加盟校が香深井小1校なので町研複式部会としての活動は行っていない。今年度は町研大会小学校大会の会場校となり、授業公開・学校研究発表を行った他、香深地区小中連携教育推進協議会での授業公開、また年2度の授業交流週間を設け、各学校の先生方に香深井小学校の授業実践を発表することができた。校内でも研究授業の機会を昨年度よりも増やすことができ、より主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践を積み重ねることができた。

2、成果と課題

- 各種授業交流・授業公開での反省用紙の記述から、香小の研究についてたくさんの指摘・助言をいただき、授業の改善に活かすことが出来た。
- 研究授業などで複式の授業の進め方について研修より深め、実践にいかすことができた。
- 校内では新たにビデオを積極的に活用した授業の振り返りを行い、授業の改善を進めることが出来た。
 - ICT 機器の更なる有効活用の推進。
 - 担任が主となって進める複式の外国語の授業づくり。
 - 子どもの主体性を尊重する授業実践の推進。
 - 対話活動を充実させる近隣校との連携の在り方。
 - 個別最適な学びの実現に向けた取組の充実。

3、令和5年度に向けて

- ①活動方針については、これまでの成果を活かし、基本的方向性は継続する。
- ②体制については、香深井小学校が研究主体となり、教育委員会や町研、町内の各団体にも周知して、町研事務局と連携を今後もいっそう強める。
- ③町の研究主題及び全道推進計画との整合性を図りながら、授業改善を推進していく。
- ④研究主題のもと、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし校内研修を充実させる。
- ⑤個別最適な学びを充実させる取り組みの充実を図る。
- ⑥近隣校と連携し、授業実践の幅を広げる。
- ⑦今年度は沖縄県糸満市立糸満南小学校と縁があり、ズームを通しての交流、お互いの特産物の送付などを行うことができた。来年度も交流活動を続けていきたい。

令和4年度（稚内市）小規模・複式教育部会の活動計画

令和4年度活動計画

1、研究主題

新しい時代を拓き、豊かな心で主体的・創造的にたくましく生きる子どもの育成
～自ら考え、解決する子どもを育てることにより学力向上をめざす授業づくり～

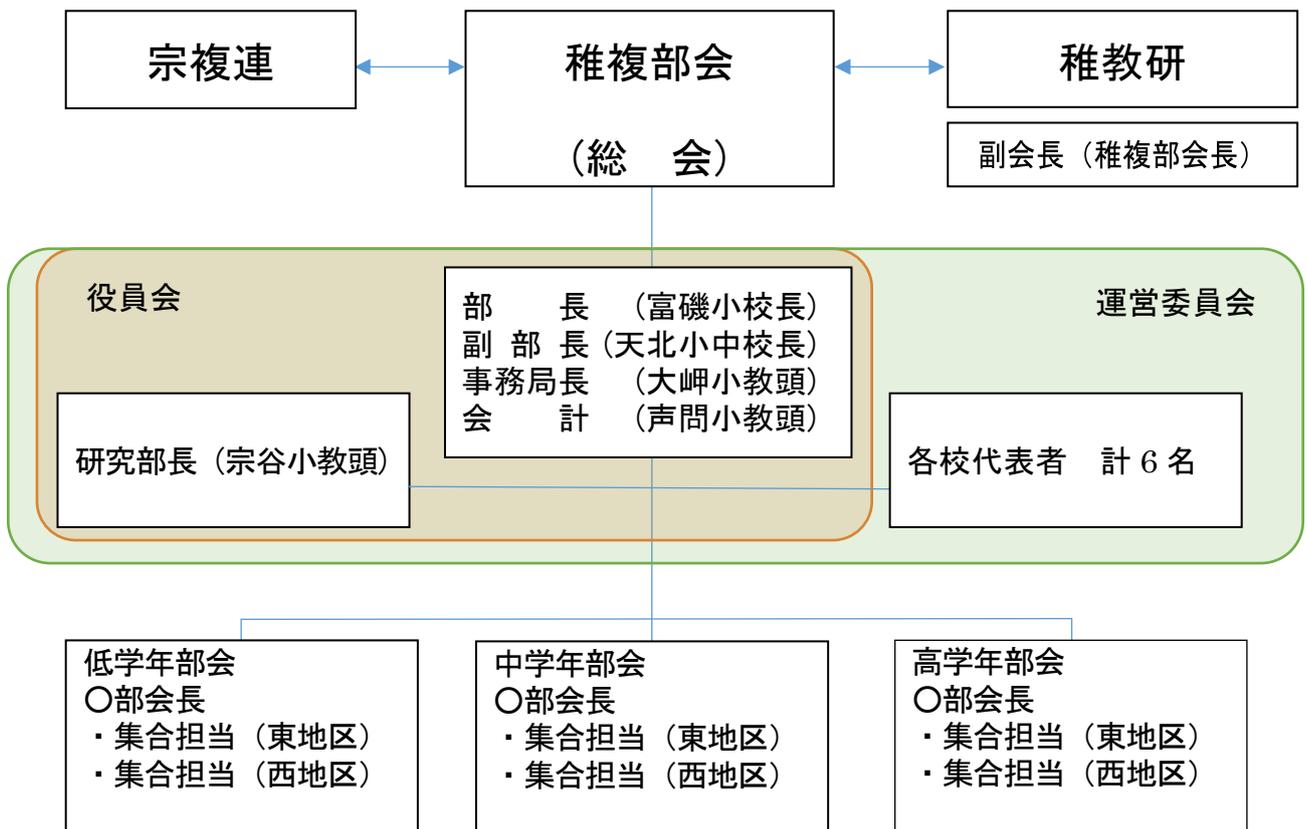
2、活動の方針・方向性

- (1) これまでの稚教研複式部会の歴史と研究実践を継承・発展させるため、研究成果の累積, 深化, 環流が積極的に行われる体制づくりに努める。
- (2) 北海道へき地・複式教育連盟「第10次長期5か年研究推進計画」, 稚内市「学校教育推進の重点」を踏まえ, 研究主題解明をめざす。
- (3) 学力向上を図る教育課程・各校研究・授業実践の交流を推進する。

3、活動内容や部会体制

- (1) 学年部会での交流
- (2) 集合学習の実施
- (3) 各種研究大会への参加・協力
- (4) 東地区合同見学の引率について

部会体制



役職名	主な役割(規約より)	備考
部長	部会を代表し、会務を総括する。	
副部長	部長を補佐し、部長・事務局長事故あるときは、その任務を代行する。	
事務局長	各部会との連絡を図り会務を処理する。	
会計	会計事務にあたる。	
監査	会計監査にあたる。	
研究部長	部会研究の計画的推進と研究活動の工夫・改善に努める。 会場校の研究を集約し、それを側面的に援助し、ブロック研や部会研究を推進する。	宗複研究部は廃止になった
学年部会長	学年部会の日程・内容の連絡調整及び、学年部会の研究推進を図る。	部会内で互選
集合担当	集合学習・社会科見学等地区単位で実施する行事の連絡調整役となる。	学年部会長と兼任してもよい

※養護教諭・事務職員については、稚複へ任意参加となるので、年度初めに各校で確認をとる。

※会計年度職員(非常勤)は稚複会員になっていない。ただし、活動によって協力をお願いしていく。

※宗複の事務局長・会計は、稚複加盟校の教頭(校長)より選出される。

令和4年度 部員一覧 (学校代表)

東地区		声問小	東地区		富磯小	東地区		宗谷小
校長	高	山田 裕子	校長	中	源田 謙一	校長	低	工藤 真
教頭・3・4年	中	須山 幸治	教頭1年	低	鈴木 和彦	教頭	中	三原 美和子
2年	低	阿部 亜矢	3・4年	中	中井 駿	1・2年	低	葛西 亜紀子
5・6年	高	佐野 雅嗣	5・6年	高	吉岡 暁子	3・4年	中	佐藤 雅一
						5・6年	高	熊谷 僚弥
計		4名	計		4名	計		5名

東地区		大岬小	西地区		増幌小	西地区		天北小
校長	中	小島 康秀	校長	低	畠山 博次	校長	高	黒木 敏郎
教頭	高	中村 繁仁	教頭		(中配置) 佐藤貢一	教頭	中	齋藤 直樹
1年	低	大場 久稔	3・4年	中	天内 道代	1・2年	低	川越 さおり
1年(特支)	低	伊藤 正顕	6年	高	佐久間 久美子	3・4年	中	大崎 直人
2年	低	早川 真由美				5・6年	高	柳 智治
3年	中	吹田 哲朗						
4年	中	三浦 圭介						
5・6年	高	山崎 裕之						
計		8名	計		3名	計		5名

低学年部会:9名, 中学年部会:10名, 高学年部会:8名

4、年間活動計画

日 時	曜 日	会議等名	場 所
5 月		稚複総会（書面による決議）	
5 月 12 日	木	宗複実践講座	声問小・ハイブリッド
5 月 19 日	木	各部会①	部会ごとにオンライン開催
5 月 24 日	木	稚複運営委員会①	声問小
6 月 15 日	水	高部会②	
6 月 16 日	木	中部会②	
6 月 17 日	金	低部会②	
6 月 28 日	火	東地区集合学習① 祭典と重ならない日程で調整	
8 月 23 日	火	高部会③	
8 月 25 日	木	中部会③	
8 月 26 日	金	低部会③	
8 月 30 日	火	稚複運営委員会②	声問小
9 月 7 日	水	東地区 5・6 年宿泊学習(東地区)1 日目	
9 月 8 日	木	東地区 5・6 年宿泊学習(東地区)2 日目 東地区 1・2 年生活科見学, 3・4 年社会科見学	
10 月 20 日	木	東地区集合学習②	
11 月 7 日	月	高部会④	
11 月 8 日	火	中部会④	
11 月 9 日	水	低部会④	
11 月 18 日	金	稚教研大会・稚複大会	富磯小・大岬小
11 月 29 日	火	稚複運営委員会③	声問小
2 月 15 日	水	東地区集合学習②	
3 月 1 日	水	稚複運営委員会④	声問小

令和4年度 稚教研 小規模・複式教育部会の活動報告・反省

令和4年度活動報告・反省

1、部会の活動内容報告

(1) 学年部会での交流

- ・今年度も感染症の影響もったが、低中高ブロック毎での実践交流や授業参観や協議は予定通りに実施ができた。オンラインの有効活用もしながらできる限り実施した。
- ・9月の東ブロック四小合同宿泊研修について予定通り実施できた。
- ・集合学習も東ブロックは予定通り実施できた。感染対策をして可能な市内施設の見学を行うことができた。

(2) 各種研究大会への参加・協力

- ・管内研については、中止となった会場もあった。稚教研として、大岬小学校、富磯小学校の授業研を行う事ができ、大きな成果が得られた。

(3) 活動経過等

日 時	曜日	会議等名	場 所
5月		稚複総会（紙面提示・議決）	
5月12日	木	宗複連複式教育実践講座 ハイブリッド開催	声問小 各校 ZOOM
19日	木	総会及び第1回部会	書面及びオンライン
24日	木	第1回運営委員会	声問小
6月15日 ～17日	水 ～ 金	高学年部会 中学年部会 低学年部会	各会場
6月28日 ～7月4日	火 水 月	東地区集合学習（低学年）大岬小 東地区集合学習（中学年）大岬小 東地区集合学習（高学年）大岬小	感染拡大防止により日 程をスライドして実施
8月30日	火	第2回運営委員会	オンライン開催
9月5日	月	東地区3・4年社会科見学	
9月7日 ～8日	水 木	東ブロック四校合同宿泊研修	稚内市少年自然学校
9月16日	金	東地区1・2年社会見学	
11月 7日 ～9日	月 ～ 水	高学年部会 中学年部会 低学年部会	宗谷小 富磯小 富磯小
11月18日	金	稚教研大会・稚複大会	富磯小・大岬小
12月15日	木	第3回運営委員会	オンライン
3月 1日	水	第4回運営委員会（予定）	声問小

2、成果と課題

- ・年間計画予定に従い、予定通り進めることができた。事務局を中心に、年度途中でも変更等に対して対応することができた。オンラインを有効活用し、中止にならないよう工夫して進めることができた。

3、令和5年度に向けて

- ・閉校予定の学校があることから、次年度以降の体制や集合学習等の進め方を検討し、新たな稚複の活動の在り方を見直していく時期となっている。
- ・実りある研修や実践を重ねていきたいと考えている。